

いしかり砂丘の風資料館

石狩市弁天町30番地4

6

石狩川河口地域の自然と歴史、縄文時代の砂丘の人々についての展示をしている資料館です。石狩に日本で初めて西洋式缶詰工場ができた場所であることにちなんで、手動の機械でオリジナルの缶詰づくり体験ができます。本資料館に隣接の市指定文化財「長野商店」は、明治時代に建設され、市内に現存する木骨石造建築としては最古のもので、往時の石狩町の繁栄を現代に伝えます。

■開館時間 9時30分～17時まで ■入館料 300円(中学生以下無料)団体(15人以上)240円

■休館日 火曜日、年末年始(火曜日が祝日の場合はその翌日) ■お問合せ TEL・FAX:0133-62-3711



史跡荘内藩ハママシケ陣屋跡

石狩市浜益区川下

7

安政6(1859)年、幕府から警護を命ぜられた荘内藩は、現在の川下(かわしも)地区を開拓し、十余棟の邸舎を建て、それを御陣屋と称していました。この跡が今も川下神社横に残り、昭和63年5月に国指定の史跡となりました。

石狩市の日本遺産

荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地船主集落～北前船の寄港地を一体的に捉え、港町同士の文化交流や北海道のニシンを軸にした交易で大きな富を生んだ北前船のストーリーであり、石狩市は平成30年に追加認定されました。

旧長野商店

石狩市弁天町30-4

北前船で財をなした新潟県出身の長野徳太郎が、明治7年(1874年)に親船町で創業し、米、塩、呉服、反物販売のほか、酒造を営んだ石狩を代表する商店の一つ。現在保存されている店舗と蔵は、木造の骨組みの外側に920個あまりの軟石が積まれた耐火性の高い木骨石造(もっこつせきぞう)の工法で、瓦屋根や卯建(うだつ)と洋風のアーチ窓という洋折衷(わやうせつちゆう)の特徴を持つ。正面の「千歳」という酒の看板には、「塚」という地名が書かれている。

■休館日 火曜日 ■入館料 共通入館料 大人300円

■お問合せ 0133-62-3711(いしかり砂丘の風資料館 付属施設)



古潭神社の神輿

石狩市厚田区古潭

明治13年(1880年)に押琴湾に大風の波風が押し寄せ、停泊していた北前船の多くが被害にあった。この時に何の損害も受けずにすんだ久吉丸の船主が「神仏の加護である」と喜び、翌年大坂から神輿を積んできて奉納した。自然と向き合う北前船の危険な面と船主の信仰を伝えるストーリーである。

■お問合せ 0133-78-2417(厚田神社に同じ) ※通常非公開



金大亭(きんだいてい)

石狩市新町1番地

明治13年(1880年)に、新潟出身の石黒サカにより創業された料亭。石狩鍋を考案した店として知られている。創業時の建物が現在もそのままに残っていて、北前船主らでにぎわった時代の雰囲気を楽しむことができる。

■お問合せ 0133-62-3011

※石狩鍋を含む鮭鮓料理コースを提供。完全予約制。



厚田神社の船絵馬

石狩市厚田区厚田1番地

厚田神社の境内に、明治24年(1891年)に5万石という未曾有の豊漁があったことを記した「豊漁記念碑」が残されている。5万石の鯉鮓の生産に要する生鮓は約4万トン。販売価格は現在の金額で約50億円になる。この碑文は、鯉の大漁獲地であった石狩湾・厚田に、多くの北前船が来航した理由を伝えている。明治中期に奉納された厚田神社の船絵馬は、北前船と鯉鮓で繁栄した厚田の様子を今日に伝える貴重な資料である。

■お問合せ 0133-78-2417

※例祭日 祝日「海の日」の前日に公開(通常非公開)



石狩八幡神社鳥居

石狩市弁天町1番地

この鳥居は元々石狩弁天社のものであったが、明治7年に弁天社内に石狩八幡神社が移った際、開拓史の命により石狩弁天社が現在の所在地に移され、鳥居だけが残されている。その一つが、瀬戸内兵庫県産の白影石製の石鳥居である。石柱には、「奉海上文化十年願主等場所請負人同秋味建船中」と刻まれている。北前船による、瀬戸内とのつながりを今日に伝える遺構である。



石狩弁天社狛犬

石狩市弁天町22番地8

現在の石狩弁天社の拝殿正面に福井県産の笏谷石で作られた、一對の狛犬がある。大きさは22センチ、胴体にはわずかに金彩、目は銀彩、口には朱が施されている。胴体から前足にかけて「荘内酒田柏屋九衛門船上乃り九兵衛天兜船」と及び「酒田秋田」と墨で書き込まれている。北前船で奥州と蝦夷地を結び、石狩場所に係った船乗りが、航海の安全を祈願して奉納したものであり、江戸時代後期の寄港地のつながりを今日に伝える貴重な文化財である。



旧白鳥番屋(石狩市はます郷土資料館)

石狩市浜益区浜益77番地1

安政3年(1856年)白鳥栄作が鯉漁業を営んだのが白鳥場所の始まりであり、2代目となる白鳥茂吉によって明治32年(1899年)に建設されたのが旧白鳥番屋である。現在は、石狩市はます郷土資料館として活用されており、当時の様子を再現した人形、ジオラマ、当時使用されていた漁具等を展示している。また建築様式についても当時のままの姿で残されており、鯉漁によってもたらされた栄華の面影が垣間見える。

■入館料 300円 ■休館日 毎週火曜日及び冬季閉館

■お問合せ 0133-79-2402



浜益沖揚げ音頭

石狩市浜益区浜益2番地3 石狩市浜益支所 生涯学習課

鯉を沖で揚げるときに歌われていたのが、労働歌である「沖揚げ音頭」である。鯉漁の姿を現在まで残そうと、地元の小学生在が引き継ぎながら、演出等を工夫し、現在の姿となっている。舟こぎ歌から始まり、沖揚げ音頭、ソーラン節と当時の鯉漁の姿を再現して残している。

■お問合せ 0133-79-2114

※毎年、はますふるさと祭り(9月)にて披露している。

